

榊原病院 Monthly Vol.31 2018.December

独立行政法人国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ
1991年富山医科薬科大学医学部卒
1996年同医学部大学院卒
2014年国立病院機構北陸病院精神科部長
2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。
日本司法精神医学会評議員。



診療科

- ・一般精神科
- ・アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・こころのリスク外来

病床数 176床

- ・精神科病棟 158床
- ・医療観察法 18床
- ・認知症ユニット
- ・アルコール・薬物依存症ユニット

病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

《新たな発見を！ 公開講座で普段聞けない話を提供します！》

栄養管理室長 佐藤 英成

当院では地域に根差した榊原病院の活動の一環として、榊原第2区『歩こう会』の実施にあわせて市民公開講座を開催しており、第3回を10月27日に実施しました。当日は60名という多くの方にご参加いただき、ありがとうございます。今回は「介護食」「栄養補助食品」を知っていただく機会になればと思い、試食と情報提供をさせていただきました。また、そのような商品のお世話にならないために、生活習慣病の予防の観点から、必要エネルギー量の算出方法や摂取栄養量の減らし方として、脂の摂取の注意点をクイズにご参加していただきながら説明をさせていただきました。

また、ご参加頂いた皆様に介護食や栄養補助食品についてのアンケートを実施させていただきました。ご協力をいただいた皆様ありがとうございます。その結果について、少し紹介をさせていただきます。まず、これらの食品の認知度ですが、6割程度の方がご存知でした。また、半数程の方が「販売されているところを見たことがある」とのことでした。試食の感想は、半数が「おいしい」と回答し、「普通」と併せれば9割を超えており、「おしくない」との回答はわずかでした。日頃口にすることが無いと思いますので、今回の試食で味や商品について知っていただく良い機会になったのではないのでしょうか？

食品のイメージは、「考えたこともない」との方が4割程度と身近なものとは感じていないようでした。また、「どれを選べばいいかわからない」との回答も多く、これらの食品が販売されていることは知っていても、現状では有効的な活用が出来ていないのではないかと、管理栄養士として介護食・栄養補助食品について考えさせられる結果でした。その点、今回の公開講座は第一歩として良い機会としていただけたのではないかと思います。ただ、正しい活用方法については、人それぞれ異なってくるため、その方に見合った提案が必要となります。病院では、主治医の指示のもと、介護食にかかわる形態食や低栄養の方への対応策など、個人にあわせて適切な食事の形態や栄養摂取について、管理栄養士による栄養相談を行っております。もし必要な時にはご活用ください。

トピックス

行事・
出来ごと

- 平成30年10月24日、平成30年度 病院立入検査を受検しました
- 平成30年10月27日、榊原第二地区 市民公開講座を開催しました
- 平成30年10月2日、三重県精神科病院実施指導を受検しました

教育・
研修

- 平成30年12月19日、三重県難治性精神疾患ネットワーク研修会・第6回症例検討会(YOU-C-C)開催
- 平成31年2月28日(木) 14:00～ 自閉症・発達障害研修会(於:三重県総合文化センター)



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)



榊原病院ホームページ
QRコード



地域医療連携室だより

〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成30年11月までに全症例は70例となりました。新規導入は10月2例、11月1例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われております。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。ご一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われております。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。榊原地区の自然を楽しむ町内散歩や、スポーツ、音楽、アートなど様々な楽しみごとを行います。昼食づくりやお菓子作り、喫茶の会など、実用的な体験もできます。参加者で協力しあって、コミュニケーションの練習も、がんばっています。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。

今回の料理教室ではナン作りをしました。



ナンの中にはとろけるチーズを練り込みカレーとおいしくいただきました。

生地から少しチーズが出て来てしまいました。が、香ばしく仕上がりました。

栄養コラム



《朝食はからだ全体を目覚めさせてくれるスイッチ》

私たちの体内時計は大きく分けて2つあり、脳に存在する中枢時計と肝臓や筋肉に存在する末梢時計があります。中枢時計は太陽の光で、末梢時計は朝食の刺激でスイッチが入り、その周期をスタートさせて、覚醒や体温上昇に繋がり、1日が始まるのです。そのため朝食を抜くと、体内時計が狂ってしまいます。平成28年国民健康・栄養調査によると朝食の欠食率は男性で15.4%、女性で10.7%、20歳代で最も高く、それぞれ37.4%、23.1%となっています。忙しい朝は、一汁三菜とまではいかなくとも、バナナやヨーグルト、栄養補助食品などで、1日のスイッチである朝食を少しでも摂るようにしましょう。

健康睡眠12ヶ条

第五条 年齢や季節に応じて、昼間の睡眠で困らない程度の睡眠を。

必要な睡眠時間は人それぞれ(みんな違って、みんないい)

睡眠時間は加齢により徐々に短くなります

年をとると朝型化…男性は朝型化がめだつようになります！

(院長コメント)

私は若いころ夜型で、朝が苦手でした。今では自然に朝の5時に目が覚めます。

うれしいやら、なんとやら…

